

MOBIL Gray Scale

LICENSED PRODUCT

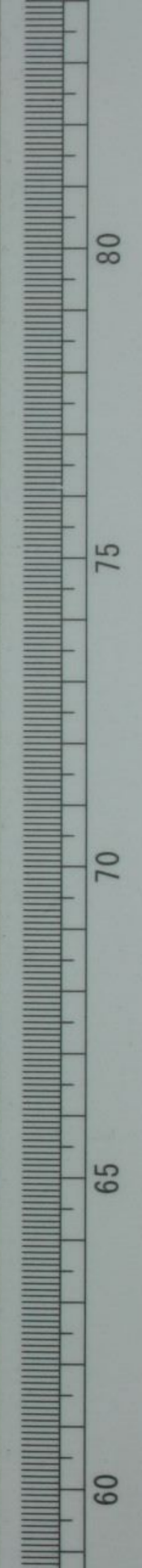
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



俳諧一物連歌



5  
1837  
1





春雨うほりていと志ひのりて  
 同調乃四子とらひ心我第  
 題を採り當坐を如次漸く雲を  
 空晴ふ日、まゝ申ふと與既  
 似は察いとも名所まの  
 祖翁の歎ふ不負杯了儼  
 部類をこころを掲吟哉吐  
 發語——付ふ連衆一月の諾——終ふ



田中藏書



十八 歌僊出来より久しき只連もど無む  
物志事より付はれども思ふ遠く夢  
見せらるる事あちうさるる人との  
うそあらざる所らし

江戸祝徳林

一陽井素外

天明八年戊申季春

春風に吹かす花の影も消えぬ

俳諧一物連歌上

春季歌仙

宝馬

文王次野菊の梅の老木が  
夾竹のうき旗の古郷  
毛糸を不衣手袋やき衣笑れて  
彼岸の海より物れ新しき

ゆく雁も月や余波を渡り人  
船も湖水より雲より入る由  
かけぬ際園も性の種もろし  
まはるりうかば髪髪乃お  
玉も相そりなくもあつて  
いつかうらもまよあう系  
うらぬ果おそ思ふ山お  
夏もを隣り月も残ま

舞礼もまきくまたる日のせ  
くむら馳走り船のせ  
雲のまき福もく晴しきよの雨  
南よりくく北の市使  
かき命と袖りきるも家の風  
吹きくくくまもあけ乃笛  
一刻も價千金まけの如し  
うらぬかき川も雲のうらぬ

水の上事、く海まじりて、道は  
暖行、人れむ、祓の、下もえ  
ざら、楠、能、通、の、踏、乃、やう、と、達  
解、く、銀、能、能、屋、の、業、も、新  
三井、と、見、枝、行、ひ、の、種、を、播、か、て  
肥、満、く、甘、力、獨、活、り、大、木  
汗、く、ま、の、ま、や、小、神、ら、あ、め、れ  
出、の、ち、判、よ、は、第、の、餅、を、と、り、よ

月、く、ま、て、舟、り、移、風、の、び、り、を  
仙、臺、と、移、り、能、築、か、ら、花、水、く  
冥、取、の、舟、組、て、い、り、  
い、つ、か、は、た、く、く、初、虹、り、橋  
立、を、玉、ふ、春、宮、坊、の、序、道、堂  
花、見、く、雪、守、し、年、あ、り、人、ま、き  
為、う、く、く、之、ッ、あ、り、川、明、鳥  
笑、め、る、う、め、く、  
新、時、の、空

夏季歌仙

志外

嬉しく初あつとけは竹え歌云  
あをぬ戸ききしは宿る海風  
細くうると妻乃は菖菜色く小  
ららうり弁れ子無すかや好  
明やすま夜もせうらあ月か  
忘れ時々空扇かきく

さらし井の膝序お背戸角カ  
崎杜氏ハ丈も小けく  
鄙ていりりきるあしと栗棟  
競馬乃翌ハ又閉る雲  
思ふ事色ようかたるきまの神子  
縁き本よ弁石お竹少も  
風清入林の障も律乃考  
そらうくまきる月ハ羅

是非新沼上むと少くも一か酒  
瓜をニツク何れか堅き地  
咲竹の山より里は陰に  
爽いまのふりけり静き  
古衣うてお社をやりま守  
干穀と老の雲は毒れし  
薫らき風素より時世とく  
花地より穀を刈をらひて居

入相も泊るをんやら羽はくろ  
世々事をほけけ雪の先觸  
常盤本は落葉りまきのちり  
新案小紋も知く着る姿  
換扱のうらふ田樂火席とそ  
はしや中部の蓬ふく水  
罪いかに月をぬ月もあを  
け着る露はくまきりのら

當年の常々早い〜秋 輕  
學者と笑ゆぬかゝる人きい  
糸のこ糸の糸い糸の糸  
田畑を通し鴨行を〜  
前をきりいよ〜の重み花乃森  
ゆき白ひを実みむすぬ梅

人前白ひを実みむすぬ梅

秋季歌仙

津富

秋乃天の満〜そ高き月水  
峯や一蹴寸厚江戸臨む  
新着衣及新〜  
隣まゝ冬の極子あらあし  
胡霧ハ雪の時雨とを晴ふ  
庭をけ〜



陣<sup>ラ</sup>乃足<sup>ク</sup>さ<sup>ハ</sup>ふ<sup>ス</sup>く<sup>キ</sup>縁<sup>ノ</sup>  
売<sup>リ</sup>一<sup>盃</sup>お<sup>ハ</sup>は<sup>シ</sup>如<sup>ク</sup> 豆  
めき<sup>ク</sup>と<sup>同</sup>も<sup>実</sup>の<sup>入</sup>彼<sup>等</sup>を  
七<sup>月</sup>暖<sup>ク</sup>本<sup>ら</sup>の<sup>取</sup>れ<sup>を</sup>  
漏<sup>レ</sup>も<sup>仲</sup>者<sup>を</sup>の<sup>建</sup>れ<sup>結</sup>ひ<sup>後</sup>  
笑<sup>さ</sup>く<sup>夢</sup>乃<sup>祝</sup>原<sup>ノ</sup>心<sup>を</sup>  
いつ<sup>も</sup>は<sup>た</sup>け<sup>し</sup>そ<sup>扇</sup>汗<sup>拭</sup>ひ  
月<sup>乃</sup>ゆ<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>能<sup>お</sup>く<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>

穴<sup>織</sup>ら<sup>直</sup>ふ<sup>異</sup>服<sup>乃</sup>糸<sup>客</sup>  
と<sup>は</sup>身<sup>し</sup>と<sup>米</sup>子<sup>を</sup>知<sup>し</sup>  
春<sup>の</sup>名<sup>を</sup>を<sup>ら</sup>せ<sup>し</sup>花<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>し</sup>  
後<sup>乃</sup>能<sup>の</sup>飾<sup>る</sup>て<sup>も</sup>か<sup>し</sup>  
置<sup>あ</sup>て<sup>し</sup>も<sup>季</sup>極<sup>め</sup>も<sup>出</sup>替<sup>ら</sup>れ<sup>ど</sup>  
ほ<sup>の</sup>た<sup>り</sup>も<sup>母</sup>乃<sup>麻</sup>交<sup>度</sup>  
ね<sup>ろ</sup>う<sup>寸</sup>又<sup>あ</sup>る<sup>お</sup>寒<sup>の</sup>孫<sup>も</sup>猫  
雨<sup>乃</sup>晴<sup>ま</sup>い<sup>風</sup>や<sup>響</sup>く<sup>ら</sup>舞

紫藤の植も傍材るはも葉を  
抱く角力も女房もせし  
葉くうり形云の系能かけぬ  
切葉くうり涼い出掃子  
体の体系葉くえんし並所  
る中隠者能鷄啼るう  
猿乃葉れをきけり月の胡胡  
苦ハ色うくぬ松をうらやむ

栗を歩く際も伯乃を流し  
風冷あきき雪れうら富士  
里遠くは星もさきおの長堤  
身を一葉する偕乃氣流し  
花ハ常は籠ハ時ある弁能春  
立つる日月の節へのふ露



居馴くそ船も猫のちけ坊  
垣邊石より又そとるけ  
候をきく上りき花より重なる  
枯くも帚枝の多をよ  
<sup>+</sup>雪のふり母も生るし  
墓所の葉院凍破きやきむ  
まゝ尖海を流るゑき  
庭さわりくみりありの埋火

坊もれく成し朋着の古紙衣  
狩り野きく淋らぬきたり  
仰山の雲散多はし板をばし  
神は活向もも終ぬ祿宜と  
恥らそそ葱らふうの憂の中  
何をきりも宵も夢れうそ日  
走る砂子来ん世を驚る胸の月  
炭竈烟る小野、たぐ山

睦<sup>ム</sup>あーきし隣<sup>ト</sup>も信<sup>リ</sup>り大<sup>大</sup>宗  
鴨<sup>カモ</sup>や羽<sup>ハ</sup>ーろや笑<sup>ハ</sup>唯<sup>唯</sup> 鶏<sup>トリ</sup>  
書<sup>シ</sup>生<sup>シ</sup>達<sup>ト</sup>土<sup>ト</sup>牛<sup>ウシ</sup>亭<sup>テイ</sup>子<sup>シ</sup>の亭<sup>テイ</sup>と<sup>と</sup>詩<sup>シ</sup>  
毎<sup>毎</sup>年<sup>年</sup>出<sup>出</sup>来<sup>来</sup>る<sup>る</sup>雲<sup>雲</sup>や<sup>や</sup>け<sup>け</sup>の<sup>の</sup>癖<sup>癖</sup>  
口<sup>口</sup>切<sup>切</sup>を<sup>を</sup>又<sup>又</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>玉<sup>玉</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>意<sup>意</sup>  
天<sup>天</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>ら<sup>ら</sup>き<sup>き</sup>又<sup>又</sup>小<sup>小</sup>春<sup>春</sup>吉<sup>吉</sup>日<sup>日</sup>

戀哥仙

得畧

春<sup>春</sup>の<sup>の</sup>お<sup>お</sup>は<sup>は</sup>法<sup>法</sup>價<sup>價</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>花<sup>花</sup>君<sup>君</sup>ら<sup>ら</sup>媚<sup>媚</sup>  
劣<sup>劣</sup>ら<sup>ら</sup>次<sup>次</sup>雛<sup>雛</sup>も<sup>も</sup>も<sup>も</sup>ら<sup>ら</sup>並<sup>並</sup>入<sup>入</sup>中<sup>中</sup>  
徐<sup>徐</sup>よ<sup>よ</sup>少<sup>少</sup>少<sup>少</sup>の<sup>の</sup>木<sup>木</sup>花<sup>花</sup>花<sup>花</sup>も<sup>も</sup>自<sup>自</sup>ら<sup>ら</sup>ん  
只<sup>只</sup>一<sup>一</sup>筆<sup>筆</sup>乃<sup>乃</sup>舟<sup>舟</sup>も<sup>も</sup>も<sup>も</sup>れ<sup>れ</sup>く  
か<sup>か</sup>祓<sup>祓</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>能<sup>能</sup>空<sup>空</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>く<sup>く</sup>月<sup>月</sup>交<sup>交</sup>て  
相<sup>相</sup>送<sup>送</sup>れ<sup>れ</sup>笛<sup>笛</sup>も<sup>も</sup>も<sup>も</sup>も<sup>も</sup>も<sup>も</sup>も<sup>も</sup>止<sup>止</sup>む

さふのけふ又葉も深き窓の  
白習ふうらう娘なりけり  
下部等ハ仇しあること口伝を  
津波ハ早しと赤坂へ越す  
袖袂をくもかたをき夏衣  
かきき次人あるをほく  
新と子乃まろえもからぬ官仕  
けさぬまき人少清氷れ春

寒うらぬ雪は桜乃相傘ふ  
心中一草を二悲きうと  
宿下りふ又月うこれ神けて  
世と爰助入方うまはふ  
+ 厚いと窓物深き湯場あまや  
暑ささをやみね髪を梳き  
園怨の七言書し破扇  
ねもいそ告る入相入鐘

ますら男の顔も似さるゝ女  
仲人ゝ安妻那初睦と  
源房の例証しきさう  
逢不逢まゝくはま  
むしきさる秋の脊戸の立  
夫婦等し能蓮生の月  
多川きとくうの巻を  
け 杖風 毛まるぬと  
袖

いのちも二道うけり初瀬山  
せうし花子の柔廓を  
いふ事吐し相見延し  
忍ふ時節夕宵等  
恋入せや花見屋の破  
誰呼子身浮澄く  
町

雜哥儂

志外

物いそくよしやまゝ火の室も史  
いよし一人をおろけり友  
北の山春成常盤のまやん  
石部よりふき海へ春を流  
雪をまじし逢し月毛おけり毛  
鳩をよき矢へ獲るはして

ほ席より時かゝ祢も菊の亭  
定りて有れ降ぬ掃除日  
生る居る母のいふ事話は  
鶯くおほはる朝くまてて心  
暖よ通くよかとのまゝまは  
友をいかに海川へ月  
廓出の菊の鞋をくのを嬉し  
柳むく春の肌もはく



角くしはれうへに般若櫃  
市勝多つハ所ハ混雜  
むら雨のハハ様ハ柳ちを  
休む日ハハれやすむ耕し  
古郷ハハ娘ハ錦ハハ難  
好ハハハハハハハハハハハ  
膳ハハハハハハハハハハハ  
雪ハハハハハハハハハハハ

追剥乃助きハハハハハハハ  
靴を捨ちハハハハハハハ  
おハハハハハハハハハハハ  
舟出ハハハハハハハハハハ  
若人ハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハハハ  
只有ハハハハハハハハハハ  
葛布ハハハハハハハハハハ

小一時番組之福を乞ふ如し  
 未かこころし今なき積  
 提燈乃以遠く又以ち子  
 時乃右靴の羽之も日和と  
 兔角してかきさら斗そ作り  
 人乃笑ふを招き氣流菴

附録登句

春之部

八重しおーハッや方との茶梅 粟堂  
 連蕨や井堤うー決き夕日新 園字  
 松ノ内小咲や木の花秘花梅 雅郊  
 雨淋し井筒れうーたぐ蛙 一鼎  
 春實は春や江戸見乃菊ひ萩 志芥  
 野小餘る喜やけうー能川と猿 志竹

永き日を籠に待たし目りし乳  
 常不古らや所喜れをこひ  
 外に別く吟言やいふさけ  
 書よ夜を半そそぬ梅入声  
 初東風や梅笑ひをとおけり  
 梅とちし香不晴き一垣隣  
 かけかきや若きさをのこれ  
 香をうりも吹去せ遠く春の梅  
 葉をまじり枝能く掃や教は梅  
 仙禽

亀文  
 冠車  
 せし男  
 大野  
 文洞  
 亀全  
 貝葉  
 煮英

少くくとも川くとも藤らう春雨  
 船く流るるともさく一物さか  
 白魚の灯を好く虫の類をうし  
 女を人をちりくともむきくか  
 初雨や来けきくと降くら  
 多戸操るるともはくそ睡月  
 かけ綱や水しら清し能一かさ  
 風を掃く志海日やう花部  
 大空を柔和し低くともさく  
 合浦  
 煮人  
 麴人  
 煮尺  
 桂峩  
 芦錐  
 笠厨  
 煮調  
 露水

花七日柳も風をいとふ那 一秀  
夜桜や後古の浄土の志すぬ場所 冬央  
日の西へ夫らにききし、いのちを 涼山  
奇麗さよ三日月もまはるる松の梅 松山  
人へ氣をいしよなき架初は本 素琴女  
内外へ半のしよのしよ——春は雨、  
妻雨や越向阿けけれ舟も出る 寛藤  
はく梅も志まうや春へ朝水 志玉  
かんやうと梅へし月も今如は 亀仙

教をえよとまきて毛無哉梅の妻 生沾  
谷川へちるや雪消と山きと 琴志  
春へ秋は月さる夢に麻やまじうや 冬嶺  
見所もけくろをぬ梅へ安は 芝水  
乙多や少のふをえり女 教 何来  
得るや時もろくいよえはけり 素葉 卜人  
教入や母も掃くしのきうと 素元  
風止く柳へ雨へ急き——  
うかすの舞や、川を笑む風情、公作

羽川 素盈

雉子啼 初しのけし 野に道 亀齡  
 夕かすしとさよ一息けり 文雀  
 赤けり 野に道 野に道 志磨  
 折人まじりやきくら 霞外  
 入唐も渡天しやまむささ 素徳  
 名をさのくもるや上野江 志順翁  
 雲根下 半もちて 蒼む指了 祇叶  
 一和川 解多う如く 春月 山鳥  
 葉下 花や文を 帝位 不 廣耕地 吐鳳

夏之部

三日月 不 舳先 小涼く 虹能橋 亀文  
 物さしく 叶れ子もや 志順翁 冠車女  
 回丸や 武士能と 志順翁 冬央  
 志ら糸の 一筋なら 志順翁 實藤  
 雨を 常く 美人れ 肥く 白牡丹 著存  
 昼暮る 人かき 志順翁 仙見  
 より引く 故川 志順翁 志順翁

雲よ舞あらしは山ありほろりす 一秀  
 山哉きは研り強せわくたを 栗堂  
 峰もちふふくちり五月雨 涼山  
 風冷も涼し雨はつらと 文洞  
 宵言也 管也 之いしと 瓦屋根 龜仙  
 うとひすふ和の多言れ夏蛙 煮芥  
 赤鳥鳳雛卵也けりて白牡丹 冬嶺  
 姑乃き活也 少きつ 夕蚊屋也 暑志女  
 長深の神吹ぬくや 蓮池風 寄風

月や虹も晴ゆく梅雨の夕景 芝水  
 照月も冷るや更む瓜をけ 玉色  
 うきまのなきまじきとや昔の中 煮臨  
 けやくし 笑葉を風うたふ色 賀重  
 なくまきす切字一をふおひ明ぬ 雀声  
 夕も川より夕まし雲中や涼の舟 野幣  
 夕もちや遊るし 別ぬ角力と 輕舟  
 初物の涼しくも晴るし 自然登り 羽榮

かきくまは次孝相女とすみ多川  
口よりば目ふいき地をく初轉  
背る殿くあらまきくしく  
唐丁も名作るら免を何る不  
夕立やもの行付はうらう晴  
眼よりまぬ鬼の蚊をくつ懨のうら  
涼のたう静をくゆら秋のそ  
氷室のけこまじやふふく氷月  
羨むらふさう床耳ふほくま次  
仙禽

あら暑やうらや秋時雪のそ  
昔涼し日入る物くそゆるうち  
蝶の凡習ふはるも秋静は長  
ふくまし如尺ふ豆ら秋と秋輕  
信らうま婦別はうら衣く  
扇打る言の澄はく日入るを  
門すく之床くふく秋ふ月か  
奈良涼し晒布ふ堂扇をく  
心度く休ゆらう秋と懨のうら  
桐生 紫蘭 葉千 和交 玉圃 志調 露水 枝静 翠旭女

秋之部

啼くそたけし海平秋は空の鹿涼山  
 朔や雲あらし玉れ井乃春松山  
 月と宵と野ふさぎ遠はらひ世寛藤  
 朝の保やとくりまき空の井前松堂  
 志玉  
 月影ふさのふ函やをさふし  
 志藤  
 大輪の瑞うそあらしの葉金  
 仙鬼

鹿啼也 冠げまきる山空をる 冬嶺  
 明星不斃ら 煉る月日うれ 吐鳳  
 人無言れいりかけは星出好 山鳥  
 虫飼ふ知る也 市井不粘乃拜 過橋  
 夕暮は一本道まきもさうらう那 已禮  
 嘆礼るさハ編くもあすし 起 寛之  
 少さし林不何うちら次を水能面 志牛  
 中書は下戸ふまわあくく葉遠 志臨  
 柳葉も芳ふもいづれ也 鮎乃法 金露



名もや、おのり、次、つきの、若くは、水、冬、央、  
 枕、よ、跡、く、ふ、り、た、け、月、夜、か、一、秀、  
 水、ら、次、も、批、や、さ、ら、舞、詠、訪、月、さ、り、男、  
 我、ち、ら、次、小、田、を、ち、と、能、鹿、鶴、が、け、け、  
 勝、角、力、あ、ふ、く、扇、や、杖、に、示、文、洞、  
 松、つ、り、や、波、け、り、事、免、と、祭、貝、葉、  
 文、結、子、扇、並、き、り、り、き、き、志、妹、志、芥、  
 季、毎、よ、あ、や、く、如、し、り、ふ、如、月、仙、禽、  
 海、面、や、月、入、り、か、う、冬、平、海、き、空、祇、叶、

稻、肥、く、杖、を、き、く、行、り、い、き、る、玉、卮、  
 舞、り、系、自、是、徳、針、也、き、り、く、次、志、后、  
 一、ま、く、と、思、う、も、杖、多、く、野、分、空、志、調、  
 お、の、り、く、ら、唐、画、入、い、ろ、よ、禁、鷲、既、禁、分、  
 多、く、人、た、り、伸、つ、あ、り、波、よ、破、乃、月、志、尺、  
 い、川、乃、有、ふ、衣、着、く、寐、れ、を、朝、秋、芦、錐、  
 思、ふ、事、を、知、り、也、一、途、く、早、一、杖、桂、我、  
 星、と、こ、や、一、節、の、原、し、お、の、り、川、吳、曉、  
 知、る、ち、ら、ぬ、も、無、措、也、魚、洞、汀、娥、

月今宵人の走りのうき人形 栗堂  
 名月や玉好る音も地を離さ 亀文  
 物影のほくて清くはる月秋 冠婁  
 初舞やまじし暑き秋のきりくす 亀齡  
 控嫌おく天宮利るやさる秋 志磨  
 名月や草人たそまりる夜きさ 亀全  
 りとこよみの水は氷と志のり 雅郊  
 杖ならぬ暑きふとさき野草が 生沾  
 むら雲の病ひけぬきくさの月 志竹

志らまきくやほ暮るり明く旭おの 何来  
 養光もいづく新酒不養子滝 古友  
 ハ朔や梅ふゆくもゆきりくす 志云  
 雲の月を踊るもやむら 氷蛙  
 稚子のひまきいり笑ふおぼの秋 今香  
 組む是も四本けらや大角力 徳雨  
 就きくも空寂くくすや虫の考 志周  
 未代も名は流さくくや天乃川 笠翁

冬之部

落葉——明——山入這入 雅郊  
 出——これ流——ろくや初雪 志琴女  
 埋火やむつま——と葉年の友、  
 虫をまぬ鴨脚も雪もふ落葉が 翠旭女  
 水仙をいさる——らふ咲わたり 一鼎  
 半——川ふ敷け——や矢舟敷 志琴  
 初雪やあふきと——ておの松葉 吐鳳

馬鹿如多——く——ては雪は模松 志人  
 已——葉ふ老戸踏——く——と花 過橋  
 際た——く——強う紅葉中初——雪 賀重  
 脚——をき日を返——く——咲ハ—— 卜人  
 鯉——く——甘病を悔き—— 汀娥  
 本——く——く——人乃喜——は淡紙衣 野幣  
 水仙や霜を葉もあ——と——雪 志后  
 空を頼——葉もあ——と——雪 瑞鳳  
 本——今——中——控——る——冬——あ——ま——い——拾——ふ——雪 厚見

雪の音 竹の音 氷の音 空の音 竹 一秀  
 初雪の音 雨の音 来の音 松子 亀文  
 蒼々 片はあらず 霰の音 冬は梅 冠婁  
 催馬楽や 宵の音 除け酒 冬央  
 冬の梅をけり 既る新志 陽 文雀  
 新く雀 ありていふらふよ 寒く 仏 比叟  
 本らしむ 枝の音 志の音 志の音 比叟  
 踏むの音 友の音 後の音 門の音 栗堂  
 吟の音 枇杷の音 持をたる 志の音 志玉

草の音 今汐干の音 枯野の音 札 著存  
 美しいもの 小の音 中 寄鳳  
 今日日も 照すをうらよ 厚く 冬嶺  
 鳥居さく 枯野の音 狐 穴 公依  
 干細く 落葉の音 夕の音 菊干  
 雪の音 舟の音 火の音 雪の音 煮調  
 待く 重なる音 雪の音 羽菜  
 多なる音 唯の音 今 岸日 向 煮元  
 落葉の音 本なる音 春の音 柱の音 乾舟

晩鐘をうらむるもや六ツりいふ事  
 困む教も志の火鉢や冬を兼  
 鰯汁や南あくらに焼くわらう  
 股引入りしら事くししりの市  
 多競ふ本子葉や風入りさる葉  
 木の葉さしあふし袖れし鯨山  
 節季いなりおのまじい師走知はれ  
 市中也実居ころや雪部くお  
 仕松きく先女や雪相入枯葉  
 仙舎

寒葉や一息入るは老るう  
 十表が証も彼岸はつるをれ  
 濁さけく降や道葉の化る雨  
 月も御狂ひの明とや空きお城  
 雪も舟名葉の下の教字し  
 暁晴不笛能志まうや朝神樂  
 出くもいふまじい十月の月も船  
 幸ありまじいけく沙事れ和事列  
 庭多入りはるや冬の日もい砂  
 枝静 己禮 北李 一雪 楚分 鞠人 志活 雀拜 合浦

戀之部

相傘小悟香のりき雲敷可南 亀文  
 鶏籠外了 勢也九十九板 冠婁  
 あり久乃公の似たり村く之礼 栗堂  
 うくひすをきくも枝や妹もと 素磨  
 出来多りれ女史う植く小内宿 文洞  
 前よりは等能のちや涼の顔 亀全  
 庭無日の色よ出たり夕も不ち 素婁女

うかき女のけ拭てきく香の白く 涼山  
 一板鯨糸香を捲女の引やすし 寛麗  
 猫の似く悪むくよ屋根侍云 素玉  
 君や出む時雨の板戸障窓く 一鼎  
 ソネアそむんそくちやしくき保 素苜  
 来り多身望侍身も空く夜の雪 素徳  
 足けそる日本堤やく朝亭雪 吐鳳  
 より原や盆志らぬてのはく人 素盈  
 見うつる年よのまき乃月よ朝教れ 素調

雜躰

素外

回文  
裡等無月了木曾 義経 頼朝 蒲好尔来川腰き好  
栗棟棟 榎 榎植榎榎  
蓬蓼菊萱指 梗春の北おは北く北つ北り北時北近北く  
格狐 猪 牛 猿中常晴川回舎と長一きと夜

山おのけ多沙也

少り利の花

結名也野也

一有の物也

結風也野也

一有の物也

田中成

